

FOCUS Vol.73

長洲町でキラリ輝く人たち

～未来ある子どもたちへ～ 夢や目標を持とう!!



日本の大舞台や世界で活躍するダンサー

トウレ 絵理さん (清源寺 37歳)



トウレ 絵理 (とうれ えり) (旧姓: 宮原)
1985年4月10日生まれ。清源寺出身。腹赤小、腹栄中学校卒業。
ストリートダンスで全国や世界中で活躍。昨年、長洲町に帰郷し、
現在は1児の母として育児をしながら、玉名市・大牟田市でダンス
レッスンの講師を行っている。

(左上) 生きるパワーと、音楽とダンスが生まれたアフリカで修行
(右上) 東京でのショータイム
(下) 台湾でのレッスン風景

熱意と努力で目標を叶えた人生

小学生の頃にテレビで見たダンスに憧れたトウレさんは、高校1年生の頃に本格的にダンスを始めた。その後、2人組のダンスユニットDEEPを結成。2014年には、世界最大のストリートダンスコンテスト「ジャパングスデライト」のファイナリストとして見事、特別賞に輝いた。他にも数々の大会で優勝を飾り、歌手A.Iさんのバックダンサーにも抜擢された。

そして、トウレさんのダンスの活躍は、アメリカ、中国、台湾、タイ、フィリピンなどに講師として招かれるなど、世界にも広がっていった。1年前に、自身の故郷である長洲町に帰郷し、現在もダンスの仕事が続けている。今年7月にも、阿蘇フェスティバルで、DA PUMPのKENZOさんとともにダンスコンテストの審査員を務めた。

「本当の本気」になることが大事!

トウレさんは、「中途半端な取り組みでは、時間も中途半端に消費するだけではないか」と話す。自分の中では本気のもりでも、「もつとできたのではないか」と、どこかで思うのであれば、それは本気ではなく、本当の本気にならないければ、その先の世界は広がらないという。これはトウレさん自身の経験から確信していることだそう。

また、本気で取り組むことで、志を同じくする人や、憧れの人、師匠との

出会いなど、人とのつながりも広がったという。そして、大切な人との出会いは、逆境に立ち向かう勇気と方法を教えてくれたそうだ。

未来あることもたちへ思うこと

人生で本当に好きなことに出会えるかどうかは運もあるが、「特に幼い子どもの場合は、周りの家族や大人などが、どこに導いてあげるかが大事ではないか」と話す。子どもの日々の経験の中で、心が輝き、燃える瞬間は必ずあるはずなので、子どもには、ぜひ様々な経験をさせてあげて欲しいという。

故郷・長洲町のために役立ちたい

熊本地震の際に、被災者の人たちとともにダンスを踊り笑顔になったり、言葉が通じなくても世界の人へダンスを披露した経験などから、トウレさんは「音楽とダンスは世界とつながるコミュニケーション」であることを感じている。そしてこれから先は、ダンスの魅力や好きなことに夢中になることの大切さなどを伝えながら、「町の活性化の一助になりたい」と思っている。

ダンスは体を動かすだけでなく、テノポの良い音楽とともに笑顔になる。それがダンスの魅力の一つだそう。これからは町内でダンスを通して子どもから大人まで一つに繋がれるイベントや、母校でのダンスレッスン訪問などを目標に活動したいと意気込んでいる。